

東海道 五十三次

平塚

ひよこりぬきんでた高麗山の姿は、
今も昔も平塚を歩く人びとの目印である。
歩みにつれて刻々と変化する山の
形を見ながら進むのも楽しい。
番町屋敷のお菊は伝承もある。

松重の絵を見ると、街道
沿いには家が軒もない
ところから、手前の棟杭は宿
のはずれの表示と思われ、
屈曲した道の奥にかか
る橋は花水橋、背景に見え
る独特の形の山は高麗
山である。
現在もこの絵と同じ形の山
を望めるが、宿はずれま
で来ると大
きく見えすぎる。
宿の中ほどから
眺める風景が
もとも似ている。



東海道
五拾五回
平塚

松重画

現在の平塚市はJR平塚駅
から北へおよそ二キロメートル旧
東海道に出たあたりが中心
街だが、かつての平塚宿はそ
こから街道沿いに西へ、およそ
七キロメートル行ったところ、平塚
市民センターのあたりに、江戸方
面からの宿の入口があった。
現在は、平塚見附跡の碑が
たっている。
平塚は昔の面影が残っていな
い代わりに、史跡表示の目立つ
宿場である。
見付(宿の出入り口)本陣、助本
陣、高札場、問屋場(西組東組)
といった宿場関係の石柱が
几帳面なほどに立てられている。
遺構はほとんど史跡を見逃



さずにたどることが
でき、それだけでもあ
りがたい。江戸のまき
宿内には平直、勘子
の墳墓とされる「平塚」
があり、平塚の地名の
由来といわれている。
なお平塚宿は、江戸
のむかしから七夕祭り
がさかんで、「湘南ひら
か七夕まつり」は仙台、
愛知県一宮とならぶ
日本三大七夕祭り。つ
旧東海道にあたる
平塚商店街が舞台。